

ART KISS

LETTER Vol. 76

2016 春



淀川テクニック(メンチヌ)2010-16年

巻頭言

日常と永遠 — 川内倫子の世界

写真には、「肖像」、「風景」、「報道」、そして「ファッション」等ありますが、川内倫子の作品はそのどれにも当てはまりません。時代を表す風景とか著名人は出てこないのです。しかし私たちが日常で誰もが見る光景や、その中で私たちの心を動かす永遠の瞬間とでもいべき瞬間を、彼女は捉えるのです。

川内倫子は、デジタル時代の現在では決して使い易いと言えない二眼レフカメラ、ローライフレックスを愛用し、取材で山や海に出かける時には、敢えて重い大型カメラを持参します。自分に負荷を与えることにより、大自然の中で希有の時間を見だし、記憶が刻み込まれた身体がその瞬間を捕まえ、すぐれた写真を生み出すのです。

彼女がモチーフとし、撮影の対象とするのは、日常や自然の「さりげない一瞬」、夢か現実かわからない「溶けるような浮遊感」、「とりとめのない風景」です。また彼女は時代を表すアイコンにこだわらず、被写体の場所や個人を明示しません。従って固定観念や先入観が入り込まないので、見る者が作品そのものに素直にアプローチし、作品の真価を捉えることが可能となります。抽出された光が個性を持ち、それは何気ない風景なのに、時として街並みや雑踏や自然の風景にまばゆい光が降りてきて、崇高な瞬間を生み出します。

今回の展示ではとりわけビデオ・インスタレーションが目を引き、阿蘇が劇的に登場します。壮大な阿蘇の映像の反対側に、英仏海峡に椋鳥が群舞する映像が投影される一室は、宇宙の空間を想像させます。しかし地名のブライトンも阿蘇も題名には出てきません。それによって阿蘇や北の海峡の得体の知れない壮麗さが浮上し、その展示室に佇む観客を圧倒します。

作品のモチーフは微小であり、時に壮大。場所は地球のどことも言えずローカルであると同時にユニバーサル。はかない日常と永遠が同居する川内倫子の作品は、写真の真実や精髓を指し示していると言えるでしょう。

熊本市現代美術館館長 桜井武

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会 第145回

テーマ「見えるもの・見えないもの」

2015.12.24



詩の朗読会は今回で12周年を迎えました。普段より15分長いスペシャルバージョンで開催しました。

テーマは「きずな」でしたが、クリスマス・イブという事もあり、クリスマスに関する詩も多く詠まれました。その中でも印象的だったのは、「サンタさんがいなくなったのはいつのこと? 茶色い犬がいなくなったのはいつのこと?」と繰り返される問いの中で、「雪」「シルエット」「マフラー」「セーター」といったイメージが、明るい幻のように浮かんで消えてゆき、いつしか子供だった頃の冬の日々は永遠のものとなるといった内容の詩。楽しさと雪のような淋しさが入り混じったような不思議な感覚になりました。

他にも、東山魁夷の描く森の中の白馬を幻想的に詠んだ詩や、クリスマススの絵本を読まれた方、リレーの中の一瞬の出来事に

赤ちゃんが生まれる瞬間を込めた詩など、様々な詩で盛り上がりました。(K・O)

【参加人数10人】

詩の朗読会 第146回

テーマ「広場」

2016.1.28



今日のテーマは「広場」。参加者は5名といつもより少なかったのですが、ひとつひとつの作品を丁寧に説明したり、しみじみと味わいをもって詠んでいたなど、ゆったりとした雰囲気での朗読会となりました。

映画「ローマの休日」でヘップバーン演じる王女と新聞記者が、ローマなのにスペイン広場と名付けられた広場でデートをする様子を詠んだり、母校の中庭を思い出し時代の移り変わりを詠む方もいらっしゃいました。

朗読会の後半には1月に亡くなった詩人の江藤和彦さんをしのび、6作品が披露されました。江藤さんは熊本市在住で詩誌「パッセ」主宰でもあり、熊本詩界を牽引された方として詩の朗読会にご参加の皆さんとも縁の深い方でした。江藤さんとのエピソードもお話いただき故人の冥福を祈りました。(H・Ts)

【参加人数5人】

CAMKEESの活動

美術展ホリエア(CAMKEES)キャンペーンによる活動紹介

CAMK読みがたり第7回

テーマ「日本のおはなし」

2016.1.9

2016年最初のよみがたりは「日本の



おはなし」をテーマに開催しました。

絵本「あぶく たった」、紙芝居「ねんねんねこねこ」、そしておなじみの「あたまかたひざボン」などを紹介しました。絵本「いなばのしろ

うさぎ」は、日本で一番古い歴史書「古事記」にも登場するおはなしです。ウサギは自分のしたイタズラがきっかけになり、サメや神様からひどい仕打ちを受けます。しかし、大國主命(おおくにぬしのみこと)に助けられて、無事にケガも治りきれいな白ウサギになるというお話です。

また、ペープサート(紙人形劇)では千支に登場する12匹の動物たちはどうやって選ばれたのか、というお話を紹介しました。たくさん動物が登場し、子どもたちは大喜びでした。(H・Ts)

【参加人数20人】

CAMK読みがたり第8回

テーマ「写真を楽しもう」

2016.2.20



1歳〜2歳のお友だちが遊びに来てくれた2月の読みがたりのテーマは、開催中の川内倫子展にちなみ「写真を楽しもう」。写真絵本の読み聞かせや、「てつてのね

ずみ」、「ぎつこんばつたん」などの手遊びと親子遊びをたくさんしました。絵本「おかしなゆきふしぎなこおり」は、

雪の結晶や屋根に積もった雪など、様々な雪のかたちが写真で紹介されています。さらさらとした雪の質感や、冷たさも伝わってくるような絵本でした。

他にも絵本「10ばんだ」では、動物写真家の岩合光昭さんによる写真で、木登りをしたり、耳をすましたりするパンダの愛らしい姿が写されています。1から10まで、「1ばんだ」「2ばんだ」...とリズムカルに増えていくパンダを子どもたちも笑顔で楽しんでいました。(Y・M)

ミュージック・ウエーブ

展示会や季節にあわせたコンサートを開催しています

CAMKピアノコンサート

vol.18

2015.12.23



当館のピアノボランティア有志によるコンサートを開催しました。今回は、5組7名のボランティアが参加、クリスマスソングやクラシック、自作の曲などが演奏されました。

クリスマス・イブ前日の開催となった今回の冬のコンサートでは、ボランティアさんのアレンジによる「赤鼻のトナカイ」や「きよしこの夜」などのクリスマスソングもあり、心が弾むような演奏でした。他にも「星に願いを」や「ベルガマスク組曲プレリュード」、「のだめカンタービレメドレー」など、様々な演目をお客様にお楽しみいただきました。(Y・M)

【参加人数60人】

街なか子育てひろば

子どもたちのためのイベントを開催しています

12月ワークショップ

「ハンドメイドの指あみマフラー」

2015.12.17



12月の街なか子育てひろばのワークショップは、色とりどりの毛糸であたためかいマフラーを編みました。道具は、毛糸と手袋だけ。編み棒を使わずに指で毛糸を編んでいきます。30

分ほどで、マフラーの形になり始め、1時間もかからずに完成しました。

お母さんたちがマフラーを編みながら、子どもたちはオーナメント作り。シールを使って、皆上手に折り紙のクリスマスツリーに飾り付けができました。同じ編み方でも毛糸の種類によって、色んなバリエーションのマフラーになります。早速、お子さんにマフラーを巻いてあげてお母さんの姿が微笑ましい光景でした。寒いお外もマフラーで温かいですね！（Y・M）

【参加人数26人】

1月ワークショップ

「親子であそぼうABC!」

2016.1.21

1月の街なか子育てひろばのワークショップは、「親子であそぼう! ABC」でした。来日16年目、3人のお子さんのパパでもあるハーマン先生と、カードや音楽で楽しく英語あそびをしました。集まった

お子さんのお名前を聞いていくハーマン先生。「My name is...」というネイティブならではの先生の声に、はじめは「???」の顔になっていた子どもたちも、繰り返すうちに「マイネームイズ○○!」と元気に答えてくれるようになりました。もちろん親御さんも元気に「マイネームイズ!」です。

カード遊びでは、天気や動物などを英語で言ってみたり、聞こえた英語からカードを選んだり、目、耳、口、からだ全体をフルに使って楽しみました。最後はみんなの手をつないでおおきな円になり、おなじみのABCのうたに合わせて楽しくぐるぐる!今回は2〜3才のお子さんが多かったのですが、英語や外国人の先生への対応の早さにびっくり!帰り道ではもう自然に口から英語がとびだしていたかもしれせんね。（Y・K）

【参加人数25人】



ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します。

VOL.29

『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』



著者: 鏡 裕介
出版: 英治出版, 2013年

色々な、人間の心を揺さぶる出来事も経験しました。
更に、少子高齢化やワーキングプアといった社会現象も深刻化の中で生まれてきたこの「ソーシャルデザイン」には、「誰かの役に立ちたい」という強い想いが根底にあるようです。

この本は、もしもあなたが具体的に「社会の何らかの課題を解決したい」と思っているならば、どんなステップを踏むべきかを、わかりやすいデザインと文章で語ってくれます。「何」か思いついていないけれど「何かしたい」と思っている人には、事例を含め、ヒントを提示してくれそうです。

しばらく前から「ソーシャルデザイン」という言葉をよく耳にするようになりました。印刷物などを美しくレイアウトしたり、手に取られやすい商品のパッケージを開発したりというような、いわゆる商業デザインとは別に、「社会をちよつとデザインしなおす」こと。目には見えないけれども、世界が少し住みやすくなるように、社会が抱える課題を創造力で解決しようとする活動のことを指すようです。

私たちの社会は、戦後の高度経済成長期から、安定成長期、失われた20年を経て、今新たな20年の途上にあります。その間、ボランティア元年と言われる阪神・淡路大震災や9・11、そしてまだ忘れられるには新しすぎる東北地方太平洋沖地震など...

悲観的に語られがちな現代ではありますが、「ソーシャルデザイン」という言葉が生まれるほどに「社会の課題を解決したい」と思う人がたくさん居るといふ現象は、素晴らしいことだと思いませんか。「社会をちよつと住みやすくする」ために、自分ができることを持ち寄って、軽やかに共有し、楽しみながら実践に移しているたくさんの方のソーシャルデザイナーが居る世の中は、なんだかとても温かくて、実は捨てたものではないと思えてくる一冊でもあります。（C・I）

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料 定員90名

上映リスト (12/21~2/20)

- 12月21日「ウェディング・バンケット」 1993年 台湾・アメリカ映画 108分
- 12月28日「牛と二緒に7泊8日」 2014年 韓国映画 106分
- 1月4日「ライブラリアン ユダの聖杯伝説」 2008年 アメリカ映画 90分
- 1月11日「ランボー」 1982年 アメリカ映画 94分
- 1月18日「プロフェッサー」 2008年 アメリカ映画 110分
- 1月25日「フェアリーテイル」 1997年 イギリス映画 98分
- 2月1日「闇のあとの光」 2012年 メキシコ・フランス・ドイツ・オランダ映画 115分
- 2月8日「ふるり」 2006年 日本映画 91分
- 2月15日「ゴダールのマリア」 1984年 フランス・スイス映画 107分

第27回熊本アートパレード

第27回熊本アートパレード
審査員講演会

2015.12.19



八谷和彦さんによる審査員講演会を開催しました。マンガ「ジョジョの奇妙な冒険」になぞらえた「弓と矢のレッスン」と題して、大学でも教鞭をとっている八谷さんから質の高い作品をつくる提案がされました。

作者（スタンド使い）が作品（スタンド）をうまく使うには？という導入部分からはじまり、モチーフ・技法・コンテキストに作品を分解することで作品の背後にある考えや興味を伝える工夫ができることなど、すぐにでも実践できる方法論を伝えてくださいました。

また、講演会に先立ち、展示会場にて八谷さん自ら出品作品の講評もおこなわれ、出品者の方にアドバイスをするなど、一つの作品に丁寧な講評をしていただきました。（H・T's）

第27回熊本アートパレード

オーディエンス賞決定

2015.12.27



第27回熊本市民美術展熊本アートパレード展の来場者投票によるオーディエンス賞には、

かるろすさんの「からっしー」が選ばれました。

黄色い大きな辛子レンコンのインパクトは多くの来場者の目を惹いたようです。奨励賞とのダブル受賞となりました。おめでとうござります！ご投票くださった139名の皆さま、誠にありがとうございました。（K・O）

川内倫子展
川が私を受け入れてくれた

川内倫子展 川が私を受け入れてくれた
開式・内覧会

2016.1.22



欧米でも既に高い評価を受け、国内外に存在感を示す女性写真家川内倫子さんの個展「川内倫子展 川が私を受け入れてくれた」開式・内覧会を行いました。

は、写真の新时代を切り開いてきた川内さんの、木村伊兵衛賞受賞作など初期の代表作から最新作までをご紹介します。また、熊本・阿蘇の野焼き等を取材した《あめつち》で新境地を開いた川内さんが、熊本の人と土地の記憶をテーマに本展のために制作したコラボレーション作品《川が私を受け入れてくれた》を初公開。「今を生きる」感覚を先見的に表現し続けてきた川内さんの次なる可能性を体感する展覧会です。

今回は《川が私を受け入れてくれた》へのエピソード提供者の方々にも開会式へご

出席いただき、特別な心持ちで会場内にて作品をご鑑賞いただきました。

開会式では「第2の故郷となった熊本でこのような展覧会を開催でき、感無量です」と川内さんにご挨拶いただきました。（K・O）

川内倫子展 川が私を受け入れてくれた
アーティスト・トーク

2016.1.23



川内倫子さんによるトークイベントを当館ホームギャラリーにて行いました。

トークでは川内さんが手がけた作品集を軸に、これまでの作品を紹介しながら、作品の変遷を丁寧にお話しくださいます。

3冊同時に出版することとなった初期の作品集からは、「日常性」「はかなさ」「崇高さ」といった言葉があげられ、ご自身の写真に対する姿勢や撮影の時に大切にしていることに触れられました。

また、作品集の編集にも力を入れられている川内さんは、見開きで2枚の写真が並ぶと新たなイメージ・物語性が呼び起こされるため、構成には特に気をつかわれるそうです。これは現在展示中の《Illuminance》の映像作品にも繋がっているようで、さらなる展開が期待されました。

他にも、《あめつち》の撮影に至るまでの神秘的な出来事についての話や、他者の思

い出を元に撮影に臨んだ新作《川が私を受け入れてくれた》に至るまでの経緯などもお話しいただきました。

最後の質問コーナーでは、トークを楽しみにされていた多くの方からの質問にも丁寧にお答えいただき、盛況の中イベントを終えました。川内さんは自身の作品について、「何かを押し付けることなく、自由に見て感じてもらいたい」とのこと。トーク後も会場で、自分のためのゆるやかな時を過ごす方が多く見られました。（K・O）

【参加人数200人】

川内倫子展 川が私を受け入れてくれた
プレマ・ファミリーツアー

2016.2.6



川内倫子展の関連イベントとして、プレマ・ファミリーツアーを開催しました。

学芸員から「正方形の写真のなかに、四角の形、丸の形もありますね」と声かけがある

と、指さししながら親子で探したり、《ある箱のなか》シリーズでは、コンタクトシートから自分のお気に入りを見つけたりして過ごしていました。

印象的だったのは、《Illuminance》シリーズの一枚を見て、不思議そうに「お花が光っている」と言うお子さんにお母さんが「そうだね」と応えていたことです。日常的なモチーフが使われながらも、特徴的な色彩や質感をまとっている川内さんの作品を、親子で味わっていただけようでした。（A・M）

【参加人数9人】

川内倫子展 川が私を受け入れてくれた
CAMKレクチャーカレッジ

2016.2.21



「川内倫子の写真と特徴」と題して、本展担当学芸員によるCAMKレクチャーカレッジを開催しました。

初めに、そもそも「写真」って何でしょう？という導入から、写真を語る上でキーワードとなる「決定的瞬間」「ニューカラー」「セットアップ」「デッドパン」などコンテンポラリーアートとしての写真のスタイルについて、写真家ホンマタカシや批評家シャーロット・コトンの言葉を引用しながら解説し、その上で川内作品にはこういったスタイルがどのように取り入れられているかについて紹介しました。

続いて、川内さんが「写真」によって、何を表現しようとしているのかを、作品集や、新作《川が私を受け入れてくれた》シリーズの制作過程で語られた言葉を引用しながら考察を行いました。

一瞬を「記録」する装置としての「写真」を用いながらも、「タイムレス」で「場所性のない」ものを目指し、一般的には失敗とされる露出過多、被写体のブレ、ピンボケといった表現を効果的に用いることで、作品から読み取れる世界が広がり、見知らぬ誰かの「記憶」へと鑑賞者が共感・共有する作品が生み出されます。これらの作品は、「写真」による表現の可能性を見る者に気づかせる役割も担っていると語るでしよ（H・T）

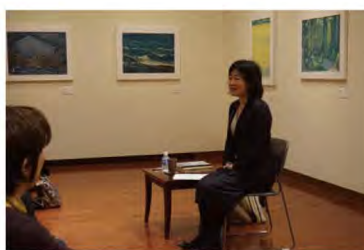
【参加人数40人】

G III

ギャラリーIII G IIIは、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

G III vol.108 江上茂雄展
小野由起子ギャラリートーク
江上茂雄さんと炭鉱のまち

2016.1.30



熊本日日新聞記者小野由起子さんをゲストに、「江上茂雄さんと炭鉱のまち」と題したギャラリートークを開催しました。トークでは、小野さんが荒尾支局時代の3年間に、江上さんと出会い、取材をした時の印象や荒尾の土地の歴史や風土についてお話いただきました。

取材の中で江上さんから語られた「風景」についてのお話にも、お客様もうなずきながら聞き入っておられました。質問のコーナーでは「膨大な作品はどのように保管されていたのか？」「独学だったという江上さんはどのように絵を学ばれていたのか？」などのたくさん質問がありました。会場には江上さんのご長男も参加されており、小野さんと一緒に質問にお答えくださいました。（Y・M）

【参加人数26人】

G III vol.109
淀川テクニク
ゴミニケーション in 熊本!!

2016.2.19-5.5

「淀川テクニクゴミニケーション in 熊本!!」展が開幕しました。

柴田英昭（1976年 岡山県出身）と松永和也（1977年 熊本県出身）により2003年に結成された淀川テクニク



アーティストミヤザキケンスケさんと世界をつなぐ絵を描こう！
佐賀空港絵画ワークショップ

2015.12.20

当館収蔵作家でもあるミヤザキケンスケさんは佐賀県出身。出身地の佐賀空港に展示する絵を九州各地の子ども達と描こうというプロジェクトに当館も共催として参加しました。

ミヤザキさんが、「世界中から来たお客さんたちが空港に到着した時に、自分の民族衣装を着た人の絵がある！と喜んでもらいましょう！」と参加者に呼びかけ、参加者はたくさんの写真から選んだ民族衣装の写真を参考に絵を描きます。豪華できれいな衣装は描きごたえもあり、保護者のみならずもちいさな参加者さんも、集中して描いていました。会場にはむつびー（佐賀空港キャラクター）も遊びに来てくれて、参加者を応援していました。（H・T）

【参加人数20人（定員制）】

は、大阪・淀川を活動拠点に、落ちているゴミや漂流物、廃材を使った作品を制作してきました。現在はさらに活動の場を広げ、国内外各地に赴き、その土地に根差した作品を制作し、その独創的な作品は小中学校の美術の教科書でも紹介されています。

本展では、熊本のゴミを使った《メンチヌ》、《ゴミ熊本産》（ゴミ淀川産シリーズ）、《Just hanging》シリーズ、鳥や鹿のシリーズによるインスタレーション、《淀川テクニク》、大西和季さんによる淀川テクニクの活動を追ったドキュメンタリー映像など充実の展示です。一度はモノとしての役目を終えたゴミたちが、アートの力によって魚や鳥など命あるものとして蘇った活き活きとした空間をぜひお楽しみください。（A・A）



熊本のまちは、アートが熱い！
イベントやワークショップで
賑わいました♪



芸術文化を活かしたまちづくり推進事業01
「藤本高廣のくず鉄魂くず鉄祭」
2016年の幕開けとなるイベントとして、熊本が誇る鉄のアーティスト、ZUBE（ズベ）さんと、藤本高廣さんの作品展示を、熊本市の（仮称）花畑広場で行いました。10トントラック4台分、合計68点の作品が運び込まれました。トレーダマークである巨大な《小国からきたバイク》を中心に、農機具やお菓子会社の廃品など様々なくず鉄でつくられたユーモラスな動物などの鉄のオブジェが並ぶ様子に、多くの道行く市民の方が足をとめられました。会期中には、公開制作が行われた他、冒険家の風間深志さんとのアーティスト・トークも盛況。にぎやかな活気あふれる展示となりました。（A・S）

2016.1.6-18

「創造都市 ネットワー ク日本」への熊本市の加盟を記念して、同市の芸術文化 会議委員 の皆さんに よるトーク セッション 「アートの力 で熊本のま ちを変える」 が開催され ました。



2016.2.20

第一部の 事例発表では、ニッセイ基礎研究所理事の吉本光宏委員による「創造都市には勇気が必要」、NPO法人BEPPU PROJECT代表理事の山出淳也委員による「アートを活かした街づくり BEPPU PROJECT」の活動、肥後の里山ギャラリー副館長の小堀俊夫委員による「肥後銀行のメセナ活動」が報告されました。
第二部では、STREET Art-plex KUMAMOTO 実行委員長の葉山耕司委員のコーディネートで、植田義浩委員（ギャラリー稲童代表）、桜井武委員（当館館長）、中川ケイ子委員（河内女性の会会長）も加わり、トークセッションが行われました。
それぞれの事例報告の感想に加えて、「熊本は豊かである。しかし皆がそれに満足していることが危機」「創造都市というキーワードで磨いていくことが重要」「何より人づくりが大事。一人一人が活性化することでもちが豊かになる」「都市と田舎をいつべ

んに体験できる熊本の面白さにまず自分たちが気づくべき」「問題提起をするアートと、課題解決をするデザインをうまく使いこなす」「若い人たちが不満足に感じていること、それがエネルギーになる」など、様々な意見が出され、活気ある議論が交わされました。（A・S）
【参加人数60人】

ASIA DAHYO
マッチフラッグ@下通商店街

2016.2.21



アーティストの日比野克彦さんによる、サッカー応援プログラム「ASIA DAHYO マッチフラッグ」ワークショップが、下通商店街で開催されました。熊本発祥のマッチフラッグ、今回は、3月に開催されるロシアワールドカップアジア予選に向けて、アフガニスタン、シリア戦のフラッグを制作しました。

ワークショップ当日は「熊本城マラソン」の日。アートとスポーツが融合するイベントにもってこいの日です。賑わう下通のなかで、小さなお子さんからご年配まで幅広い方々にご参加いただきました。（A・S）
【参加人数100人】

【芸術文化出張講座】
（アウトリーチ事業）
音楽アーティストとともに

学校などで実演やワークショップを行っています。
2016年2月9日
城西中学校「12年生135名」
〈内容 学校オリジナルCC
講師にぎわい座



【アートバス】

CAMKアートプログラム
アーティストとともに、美術館内や学校でワークショップを行っています。
2016年2月1日
錦ヶ丘中学校「支援学級20名」
〈内容 陶芸WS
講師 田口和代



【階段ギャラリー】

学校やクラブなどで制作された、図工美術作品を紹介するコーナーです。
2016年1月8・31日
田迎西小学校
〈内容 ビカソになって…作品展
2016年2月6・24日
熊本市人権推進総室
〈内容 人権ポスター展



ART DEN GYAN

アート・どぎやん。

*熊本弁でアートはどうなの? という意味です

ロココの狩師よ、ここはわたしのテリトリー! まうちみかの彫刻とドローイングの世界

なかお画廊

熊本市東区佐土原1-13-2
TEL 096-3500-95062

2016.2.13-21



ギャラリーの扉を開くと、最初にチラシのメインイメージにもなっている「メルト」という犬の作品が迎えてくれた。会場には生命をテーマに彫刻、ドローイング、オブジェなど33点の作品が並ぶ。中型犬サイズから手のひらにすっぽりと収まるような作品までさまざまだった。作品には、石膏、樹脂、石、布、蠟引きの紙など、幅広い素材が扱われ、口遊むように描かれたドローイング群や、一つまみほどの粘土の集積で形作られた彫刻は、欲しい部分に絶妙な手仕事をさせてくれて、鑑賞する

快感をくすぐられるものだった。どの作品も一手一手念入りに作られているように心地良く、表現したい世界に対して意欲的に制作される姿に、今後の活躍がますます期待される。(K・O)

川内倫子
「Someday for sure」

orange

熊本市中央区新市街6-22
TEL 096-3505-1276

2016.1.23-31



当館での展覧会「川が私を受け入れてくれた」と会期を揃えて、かねてから川内さんが親交のあるorangeでの展示。川内さんの出身地である滋賀の風景と、家族の死の直前の物語が、いくつかの写真作品とスライドショーで展示された。

散ったあとの桜の花を眺めるような...と川内さんによる解説パネルに書かれるように、スライドショーでは、病床にある年老いた女性の、家族を前にした柔らかな笑顔の写真的あとに、散って地面に吹き寄せられた桜の花びらの写真が続いていく。ピンクの頬をした瓜実顔の笑顔と、花びらの色かたが重なり、人の生死と、桜花の咲き散りが優しい色合いで重なる。静かに心に染み入る内容だった。(H・T)

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

川内倫子展

- ・写真を撮っていいところがあって良かったです。瞬間と記憶、優しさを感じました。家族は素敵だと思います。写真なのに映画を見ているようでした。(市外40代女性)
- ・今までの展示と新作を一度に見ることができ、倫子さんの世界観を堪能できました。(市外30代女性)
- ・川内さんの写真、クウネルなどの雑誌でみていたのですが、来てよかったです。展覧会の構成、映像作品とのバランスがすばしかったです。(市内20代女性)
- ・写真の色づかいがすばしかったです。(市内40代男性)
- ・展示作品がそれぞれ興味深かった。写真という表現方法の多様性に眼が開かれる思いがしました。中でも目が釘付けになったのが、《あめつち》の最初の展示作品(野焼)だったのが熊本人としては大変うれしかったです。(市内50代男性)
- ・生と死がぐるぐるめぐり、なつかしいような風や日差しやあたたかさに涙が出た。(市内女性)
- ・独自の企画をされていてとても良いと思います。九州でこういった企画展が見れてうれしい。《Cui Cui》では音楽が心地よく、うとうとしてしまいました。(市外30代女性)
- ・川内倫子さんの作品展が熊本で行われてうれしかった。遠くであっても行きたかったのです。(市内60代女性)

編集後記

石牟礼道子さんの「食べごしらえおままごと」を出張の合間に読了。季節の折に触れて心をよぎる遠い思い出、今はもういない家族と過ごした愛に満ちた時間の記憶が鮮烈に甦る瞬間...。読みながら、川内倫子さんの作品世界との重なり合いをしみじみと感じました。

編集代行 富澤治子

Green birdという団体についてこれまで知りませんでした。『ごみを拾う経験をする』と、ごみを捨てる人の数を減らしていこう」とする考え方にはとても共感しました。今回は淀川テクニクさんとコラボしたことで「このゴミはアートに変わるんじゃないか?」とみなさん楽しく拾えたそうです。活動スケジュールはHPで確認ができるので、これを機に、私も参加してみようと思います。

担当 大田黒翔代

「執筆者」* 原稿の文末にイニシャル表記

岩崎千夏(Ci) 熊本市現代美術館事務局次長
富澤治子(H.T) 熊本市現代美術館主任学芸員
坂本顕子(A.S) 熊本市現代美術館主任学芸員
芦田彩葉(A.A) 熊本市現代美術館主任学芸員
池澤茉莉(Mi) 熊本市現代美術館学芸員
丸吉ゆかり(Y.M) 熊本市現代美術館学芸員
大田黒翔代(K.O) 熊本市現代美術館学芸員
塚本春菜(H.T) 熊本市現代美術館学芸員
村上綾(A.M) 熊本市現代美術館学芸員

ART KISS LETTER アートキッスレター

vol.76 春号(2016年3月) 【無料】

発行人: 桜井武

編集: 富澤治子 大田黒翔代

デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

http://www.cank.or.jp

〒860-0845

熊本市中央区上通町2-3

電話 096-278-7500

ファックス 096-359-7892

【次号は初夏号(5月発行予定)】

今田淳子

HIGO-ROCK! HIGO-ROCCA! (肥後六花プロジェクト)
古着物を一般募集



着物を用いた作品例

2017年に開催予定の開館記念15周年記念展第3弾「誉れのかまと」展(仮称)イベントとして、熊本在住の現代美術家今田淳子さんが、市民から募集した古着物を活用し、肥後六花を咲かせるプロジェクトを発動いたします。

展覧会オープンまで5期に分けて、各シーズンに2メートル級の巨大な肥後六花を熊本現代美術館内フリーゾーンにて咲かせていきます。(第1期として、5月に肥後菖蒲、第2期として肥後朝顔を予定)

今田淳子による、現代を生きる女性を応援するための、肥後六花。市民のみならずとも、個性豊かに、あでやかに開花させていくプロジェクトです。

【募集内容】期間:平成28年3月~4月末日

着物の種類:長襦袢、着物、道行、羽織、半幅帯、名古屋帯、袋帯など。肌着、裾除け不可。色:赤色、水色、青色、紺色、白色、黄色、緑色、黄緑色。無地・柄どちらでも可。素材:絹、化繊、ウールなど。

注意事項

- *応募いただいた着物の返却はいたしません。
- *着物は素材として使用するため、使用の有無は作家が決定いたします。
- *館内に着物ポストを設けます。ご住所、お名前、電話番号を記入したメモ紙とともに、袋にいれて封をし、投函ください。後日受け取り確認のご連絡を差し上げます。
- *郵送されます場合は、元払いをお願いいたします。発送元のご住所、お名前、電話番号は必ずご記入ください。後日受け取り確認のご連絡を差し上げます。
- *着物のご提供者は、協力者として2017年秋の企画展オープニングにご招待します。

淀川テクニック ゴミニケーション in 熊本!!

制作&おそうじ日記

1月10日(日)下見と打ち合わせ

淀川テクニック・柴田さん来熊。本展にご協力いただくgreen bird熊本チームと熊本市中央区役所の方々と打ち合せ。

1月16日(土)坪井川清掃

熊本市中央区役所の方々と一緒に坪井川の中を清掃。ライトセーバーっぽなおもちゃ、黄色いサッカーボールなどのカラフルなゴミを獲得。

1月17日(日)green bird熊本チーム朝そうじ
green bird熊本チームの定例そうじ。時計のチェーンなどワークショップ向きの小さなものを少し発見。1月26日(火)green bird熊本チーム夜そうじ
夜の定例そうじ。初参加の方もチラホラ。淀川テクニック展の話もしながら市街地をゴミ拾い。2月2日(火)green bird熊本チーム夜そうじ
夜の定例そうじ。商店街はタバコの吸殻や飲料系のゴミが圧倒的多数で、作品に使えるものはやはり少なそう。

2月7日(日)「ゴミニケーション! 拾ったゴミでARTを創ろう♪ Vol. 1」

green bird熊本チーム企画による展示会のための特別なイベントそうじ。九品寺のとあるスポットでアウトドアチェアやトタンなど、堆積したゴミも発掘。



2月11日(木・祝)「ゴミニケーション! 拾ったゴミでARTを創ろう♪ Vol. 2」

green bird熊本チーム企画によるイベントそうじ第2弾。九品寺のとあるスポットでホイールやヘルメットなど、投げ捨てられたであろうゴミを大量に回収。

2月13日(土)

淀川テクニック・松永さんが先に来熊。体調を崩されている中、作品のためのゴミを見つけるべく熊本を散策。

2月15日(月)

淀川テクニック・柴田さんも続いて来熊。

2月16日(火)-18日(木)展示作業@熊本市現代美術館

淀川テクニックと京都造形芸術大学の学生による展示作業。ボランティアのみなさんにもご協力いただきました。《メンチヌ》の顔は熊本のゴミでメンテナンス。

2月17日(水)「淀川テクニック ゴミニケーション in 熊本!!」関連展示オープン

green birdや熊本市中央区役所の方々など今回で協力いただいたみなさまをアトスカイギャラリーでご紹介。淀川テクニックのプロモーションビデオや資料なども展示。



2月19日(金)「淀川テクニック ゴミニケーション in 熊本!!」展オープン!



2月21日(日)「ゴミニケーション! 拾ったゴミでARTを創ろう♪ Vol. 3」

淀川テクニックの二人とともに、マラソン大会が終わる頃の街中を散策しつつゴミ拾い。



2月22日(月)-26日(金)《オンチヌ》公開制作@ (仮称)花畑広場

これまで集めてきたゴミを (仮称)花畑広場に大移動。《オンチヌ》初のTシャツウロコに挑戦。

2月23日(火)green bird熊本チーム夜そうじ
おそうじの前に、子どもの頃にゴミや身の回りでつくったものをお題にして自己紹介。前日の雨のせいかゴミは全体的に少なめ。2月26日(金)《オンチヌ》城西苑へ移動
完成したオンチヌを夜の間に城西苑へ移動。熊本城をバックに、また違った眺め。2月27日(土)アーティスト・トーク
淀川テクニックによるアーティスト・トークを開催。これまでの多岐にわたる活動から未出品の作品に至るまで、淀川テクニックの本質に迫るトークを展開。
つづく!! (M.I)

INFORMATION



《イワトビペンギンNo.1》2015年

《オンチヌ》屋外展示スケジュール

期間:2016年2月27日(土)-3月18日(金)
場所:桜の馬場 城彩苑(熊本市中央区二の丸1-1-1)
期間:2016年3月19日(土)-5月5日(木・祝)
場所:熊本市動植物園(熊本市東区健軍5-14-2)

ワークショップ「ゴミから何ができるかな?」

淀川テクニックによるスライド・トークの後に、ゴミや不要になった物を材料にした作品づくりを行います。
日時:2016年5月5日(木・祝)13:30-17:00
場所:びぶれす広場[熊本市現代美術館屋外]
参加費:無料 対象:子どもから大人まで